

3 新市の概況説明

まちづくりフォーラム委員 古城 和行

皆さんこんにちは。ただいま紹介ありました東郷町の古城と申します。よろしくお願ひします。まちづくりフォーラムでは、保健福祉グループに所属しております。

今日は、フォーラム委員45名を代表して、新市となる、新しいまちの概況について短い時間内ですがご説明させていただきます。最初にかいつまんでご説明の内容を申し上げます。

まず、新市の概況としまして基本的な部分ですが、新市のすがた、それから9市町村一体となったときの面積、人口などについてご説明いたします。2つ目にわれわれの日常生活にも身近なところですが図書館、運動公園といった公共施設の状況についてご説明します。それでは早速、新市のすがたということでご覧下さい。

この画面の黄色い部分が新市のすがたとなります。現在の市町村の境界線を取り外しております。皆様どのようなかたちにご覧いただいているでしょうか。2市4町3村の9市町村が一体となった場合の地図ですが、特徴としては甑島という島嶼部を有する新しいまちということになります。甑島と串木野港の間の海上アクセスでは高速船とフェリーがあります。日帰りの場合、甑島から串木野にきて約6時間滞在できるというのが現状のようです。

この地図のなかで案外、皆さんもこれまで近くにはあるけど訪れたことがないというところもあるのではないのでしょうか。新市のなかを横断する川内川、その流域、冠嶽や蘭牟田池、甑島などあげたらきりがありませんが、様々な自然、歴史・文化が詰まっております。構成団体が多い分、地域の再発見の素材も多いのではないかと思います。

近い将来の大きな変化として九州新幹線と南九州西回り道を地図上で見るとこのような絵になりまして、本地域を縦断するような形になります。九州新幹線は来年には部分開通しますが、ご承知のとおり、現在は川内駅が大きく変わろうとしておりますし、開通後は時間的にも福岡などの大都市圏も今まで以上に身近かなものとなってきます。何かが変わる、といった期待感も徐々に高まってくる、という感じです。

次に、具体的なデータの説明に移ります。

まず、面積です。新市の面積は706.24平方キロメートルとなります。このうち本土部分は645.17平方キロメートル、甑島が61.07平方キロメートルで、甑島が新市の1割弱の面積となります。

鹿児島県全体が約9132平方キロメートルですから、新市の面積はその7.7%を占めるということになり、現在、県内の市平均面積が約170平方キロメートルですから、ざっと4倍超と広大な面積になります。

次に人口ですが、平成12年の国勢調査では新市の人口は、このように13万人弱で、その5年前の国勢調査からは1.2%減とわずかながら減少しております。ただ、世帯数

については同じく平成12年の国勢調査で50,450世帯、こちらは逆に2.5%増と増えています。ということは1世帯当たりの人数が減っていることとなります。平成12年国勢調査では一世帯当たり2.57人となります。核家族化は着実に進行していると考えられます。

それから、人口について将来はどのような推計結果となるかを次でみております。

新市の将来推計人口は、ここに示されるような推計結果となっております。これは、平成7年、12年の国勢調査の結果をもとに推計しておりますので、今後の政策とかは反映していないわけですが、何も行わないとすると、という仮定のもとでご覧いただきたいと思えます。

ちょうど真ん中の棒グラフが平成12年の国勢調査人口です。一番左の平成2年からなだらかに減少しており、5年後の平成17年が約12万7000人、そして10年後の平成22年が約12万5000人弱と今後についても、わずかながら減少していくという推計結果となっております。繰り返しますが、この数字は、新市の目標を示しているわけではございませんが、合併して、新市の魅力を高め定住人口を増やしていくという可能性を求めていく必要はありそうです。

川西薩地区の人口と面積をみてきましたが、ここで他の地域と比較してみたいと思えます。現在、県内では12の法定協議会が設立されています。法定協議会の中では、人口については、鹿児島地区の約60万人に次ぎ県内第2位、面積では最も広いということになります。人口につきましては、これまで県内には鹿児島市を除き人口10万人を超える市町村はなかったわけですが、今後他地域の法定合併協議会の設立状況にもよりますが、現段階でみると、少なくとも新たに3つの10万人規模の都市が誕生する可能性があるようです。

これ以降は住民生活の関連指標についてご説明します。まず構成自治会数は、現在の単純合計で726あります。また、校区公民館が38、地区公民館が30、自治会公民館が532という施設数になっております。施設の数とはもかく、今回のまちづくりフォーラムの提言の中でも自治組織については、様々な提言がなされております。自治組織、コミュニティの関係は、住民にとっても最も関心の高いところではないかと思っております。

それから社会教育の関係ですが、まず、社会教育施設について、新市ではどのような状況になるのかを地図で見えます。ご覧のとおり、主な施設をみますと現在の各市町村で建設されたものなど、ある程度は整っている状況にあります。合併によって住民の方々がより利用しやすくなるのではと考えられます。

それから、社会体育施設についてですが、現在は、このような状況にあります。建設年度は各施設様々です。皆様にとっては馴染みの多いところ、利用したことがないところとあろうかと思えます。これらが新市の財産となるわけで、これらを有効に活用し、例えばスポーツ合宿の誘致やそれと温泉施設と連携することで、交流人口の増大とかに活用していく必要があると考えられます。

冒頭にもふれましたが、本地域は近い将来、九州新幹線部分開通や南九州西回り自動車道の開通などが控えております。こうした社会基盤整備の観点では大きな環境変化が見込まれる状況です。一つのまちとなったからこそ取り組めることもあろうかと考えられますので、環境の変化をフォローの風として取り込んでいくことが重要ではないかと個人的にも考えているところです。

今日はこの後パネルディスカッションでも提言の報告がなされますが、まちづくりフォーラムの提言が新しいまちづくり計画に活かしていただければと念じております。

以上、限られた時間ではございましたが新市の概況についての説明を終わります。どうも有り難うございました。